

ESP的アプローチを考える —服飾専門学校における「ファッション英語」の試み—

藤枝美穂（文化服装学院）

はじめに

英語教育の一分野であるESP (English for Specific Purposes) とは、「ある特定の目的に絞って英語を教授・学習する」アプローチである。つまり、個々の「英語によるコミュニケーションの目的」を定義することにより、ニーズに即したコミュニケーション能力を効率よく習得しようとする立場といえる。本稿ではまず、日本ではなじみが薄いこの分野の概観を紹介し、その特徴を一般英語(GE = General English)と比較する。次に服飾専門学校での、ファッションを題材としたESPの実践例を報告し、日本の高等教育機関におけるESPの可能性について探る。

ESPの下位区分

書店の語学書コーナーをのぞくと「ビジネス英語」、「ホテル英語」、「科学技術の英語」「法律英語」「秘書英語」「百貨店英語」「医学英語」のように、専門用語や特殊な言い回しがふんだんに盛り込まれた学習参考書が、最近はかなり見られるようになってきた。職業に密接したこうした参考書は、対象となる読者を限定し、いわばESP的アプローチを取っていると言える。しかし、これらはどれも自習用参考書という性格が強く、「ビジネス英語」以外は実際に教室内でESPが実践されている例はまだ少ないように思われる。

ESPは大きく、職業中心のEOP (English for Occupational Purposes)と、大学／大学院での学業を中心に考えるEAP (English for Academic Purposes) とに分けられる。また、EOPとEAPにまたがるものとしてEST(English for Science and Technology)があり、この分野はビジネス英語と並び教材開発が盛んに行われている分野である。

具体例を挙げると、EOPとしては、職場でのコミュニケーション能力向上を目的とする移民のための基礎的な語学訓練のようなものから、航空業に従事するために必要な英語、医者や看護婦に必要な英語といったような専門性の高いものまでが考えられ、それらは学習者の職場経験の有無によって、pre-experience、simultaneous/in-service、post experienceにさらに分類可能である。一方EAPでは、専門分野を限らず外国人留学生全般を対象にしたstudy skillsと呼ばれる、note taking、essay writing、速読、論文の書き方など、大学での勉強に必要なスキルを中心に教える授業や、専門課目の内容を直接英語で学ぶ例がある。

ESPとGeneral English

このようにESPの形態はじつにさまざまだが、Strevens (1988) はESPは4つのabsolute characteristics (絶対的特徴) と2つのvariable characteristics (可変的特徴) に分けて区別する必要があるとし、次のような定義をESPに与えている。

Absolute characteristics

ESP consists of English language teaching which is:

- designed to meet specified needs of the learner
- related in content (i.e., in its themes and topics) to particular disciplines, occupations and activities
- centered on the language appropriate to those activities in syntax, lexis, discourse, semantics, etc. and analysis of this discourse
- in contrast with "General English"

Variable characteristics

ESP may be, but is not necessarily:

- restricted as to the language skills to be learned (e.g., reading only)
- not taught according to any pre-ordained methodology

また、ESPを推進しようとする人の主張は一般に次のようなものである。

Claims: the claims for ESP are

- being focussed on the learner's need, wastes no time
- is relevant to the learner
- is successful in imparting learning
- is more cost-effective than "General English"

(quoted in Johns & Dudley-Evans p.298)

このように、ESPはあくまでも言語（この場合は英語）を中心にした language teachingであり、学習者のニーズに合った内容（職業や専門分野など）を伴うものである。また、指導対象は特定の言語技能に限られる必要はなく、方法論も定まっているわけではない。さらに、ESPの長所として一般的に論じられる点は、学習者のニーズや興味に即しているため時間の浪費が少なく、General Englishよりも経済効率がよいうえ、学習者が学習の実感を得ることができる、ということである。

また、通常ESPはGeneral Englishと対比される。Widdowson (1983)はESPとGPE(General Purpose English)の対照的な特徴を、前者を特定の言語活動を特定の状況で遂行することができるようにするtraining、後者を将来必要となるかもしれない不特定の状況のためのeducationであると、ESPの場合はpurposesが具体的、実践的でdescriptiveであるのに対し、GPEではpurposesが教育的信念に基づいて定義されなければならないtheoreticalなものであると指摘している。

さて、これまでの議論を総合すると、GEとESPの関係は二項的というより連続的であると考えられる。つまり、左端に非常に汎用性の高いGEの授業があるとすれば、右端には専門性の非常に高いESPの授業が存在する。例えば中学校初期の英語などはかなり左寄りに位置するであろうし、パイロットのためのaviation Englishなどはかなり右寄りということになる。右方向に行くに従い専門性の度合いが高まってtrainingの要素が強くなり、一般英語の要素は薄れる。逆に左方向にシフトするに従い、汎用性の高い一般英語の度合いが多くなり、educationの色彩が濃くなる、ということだ。そして、こうした各授業内容の位置づけは、実際には学習者の英語のレベル、専門/仕事の内容、学習者の専門知識の有無、あるいはそれ以外の外的な要因（語学習得の緊急性、学校やスポンサーの意図など）さまざまな要因を総合して行なわれると

考えられる。

ちなみに次に事例研究として紹介する「ファッション英語」の授業は、就業前の学生を対象としているので、分類上はEOPのpre-experienceにあたり、また学習者の英語のレベルが初級～中級程度で服飾の専門知識もまだ限られていることから、かなりGEの傾向が強いESPであるといえよう。

「ファッション英語」の試み

これは「ファッション情報科」という学科に昨年度新設された、1、2年次の必修科目である。市販の語学教材にはファッションを取り扱ったものが見つからず、雑誌や新聞、ビデオなど、authenticな教材を毎回使って授業を進めている。週1回90分（通年）で、学生数は1、2年とも60名弱（男子2～3名と留学生数名を含む）である。出席率は90%以上とかなり高いものの、英語のレベルには大きなばらつきがあり、英検2級取得者から中学段階の基礎文法でのつまづきが見られる学生まで様々である。同様に英語に対する学生の態度にもかなりのばらつきが見られる。

授業では、ファッション雑誌や業界誌に掲載された短い製品説明文の英日翻訳、海外のファッションショービデオを使った聞き取りやその内容の日本語による要約、英文業界紙の記事の読解（スキミング/スキヤニング）等に簡単な英作文と文法解説を盛り込んでいる。また、文化祭展示用に、好きな店の紹介や街角のファッション分析などをまとめた、簡単な英文小冊子をグループプロジェクトとして昨年は作成した。全体として英日翻訳または日本語による要約文の作成をタスクとすることが多いが、それは広報/宣伝、雑誌編集方面への就職を希望する学生の興味を考慮してのことである。

授業の手順を具体的に示す。別紙教材例（1）は服飾業界紙（*Women's Wear Daily*, January 1993）からの抜粋で、93年夏のアクセサリーの流行は70年代のヒッピー風スタイルがカムバックしているという内容である。

- 1) ウォーミングアップとして、教材を配る前に最近のアクセサリーの傾向について日本語で学生に尋ね、出てきた答えを英語で板書する。
- 2) 教材のプリントを配布し、文章を教師がゆっくりと音読する。学生は文を目で追う。
- 3) もういちど全体を見直して、アクセサリーを表すことばを○で囲ませ、発表させる。カタカナ読みとは発音が異なるものが多いので、発音の模範を示しリピートさせる。
- 4) ワークシートの問題に英語で答えさせる。この時辞書は使わないようにし、あくまでも文章の大筋を把握できるかを試させる。
- 5) ワークシートの答え合わせをしながら、構文や単語の解説をする。また、具体的な素材などについては、なるべく実物を見せるようにする。（crochet, macrame, round glasses等）
- 6) 記事の日本語訳（ドラフト）を提出させる。
- 7) 翌週、提出させた学生のドラフトを適当に振り分け、クラスメイトの訳文をグループ単位で回し読みし、なるべく多くの人の訳を読ませる。
- 8) 自分の訳文を推敲、清書し、最終稿を提出させる。
- 9) 提出された訳文は、訳の正確さと日本語の流れから総合的に判断して1～5のポイントと短いコメントを付けて返却する。優れていると思われる訳文をいくつかタイプして学生全員にプリントとして次の時間に配り、優れている点を簡単に説明する。

この教材は構文的には少し難しいが、内容がタイムリーであるので、多くの学生が興味を

示した。クロッシェやマクラメ、キャンバスといった用語を知らない学生も多いが、実物を見せることで用語の知識も身に付く。学生の所持品の中にこうした素材が実際に使われている場合が多いので、それを全員に見せたりもした。下記は実際の学生作品である。

「70年代の復活」という名の大きな波へとアクセサリデザイナー達が次々に飛び込んでいった。彼らは自分達のヒッピー時代からヒントを得て、丸眼鏡、ペンダント、頭を包むスカーフ、またクロッシェ編みのスカルキャップなどを作り出した。たった1つの異なる点といえば、それが90年代風にアレンジされているということだけだ。

長いビーズは特に話題になり、軽い布地やベルボトムなどのコーディネイトで注目されている。素材はどれも凝ったものばかりで、彫刻をほどこした木材や動物の角、ペンテージグラスなどさまざま。精巧に仕上げられたものから原始的なものまで、多彩である。

マクラメやクロッシェも復活し、ヒップハンガーベルトや帽子などから手袋、(大判の)スカーフに至る、あらゆるものに使われている。

バッグ類では、手作りのものが多く見られ、キャンバス、麻、麦わら、といった素材面の「遊び」が見られる。

教材例(2)は、米国のメイルオーダーカタログ(*Lands' End Direct Merchants, April 1994*)の女性用プレザーのページである。ワークシートの設問には、出典を明かさずに、これがカタログであることを推測させる質問から、消費者として必要な情報(値段、色、取り扱い方法など)をカタログから読み取るもの、服飾の専門用語を理解し質問にこたえるものなどを配した。基本的な情報はほとんどの学生が把握できているようだったが、ポケットやカフス、見返しなどの縫製に関する詳細な情報は、2年次の学生にも難しいようだった。また、カタログ独特の省略された文章を読みこなすためには、もっと段階的な導入が必要だったように思う。カタログを教材に使う場合、実際に注文書に記入したり、注文の手紙を書くなど、実用的なタスクが考えられる。

年度末のアンケートによると、学生の約9割が「英会話の授業のほかにこのようなファッション中心の英語の授業があることをどう思いますか」という質問にプラスの反応を示した。理由としては「学校(学科)の特色が出てよい」「ファッション用語が学べてよい」「英会話でやらないことをやるからよい」「英語は苦手だがファッション英語なら興味もてる」「将来必要になる/役に立つ」というものが多かった。また、「ファッション英語で勉強した内容は将来自分の仕事に役立つと思いますか」という質問に対しては、とても役立つと思う(15.9%)、少しは役立つと思う(46.4%)という返答を得た。この結果から、ファッションという題材の選択が学生の英語学習への意欲を向上させる上で役立つことがうかがえる。

しかし実際には、新聞や雑誌、CNNビデオなどのauthenticな教材は学生にとって難しすぎる場合が多く、写真や映像などの視覚的なヒント、他教科から得た服飾の知識、日項目にする雑誌等のカタカナ語の知識などによって語学力の不足をある程度補うことができるものの、あらためて教材選択/教材開発の難しさを痛感している。また、1年次よりも2年次の方が専門知識が増えている分だけ反応がよく、特に日本のメディアでまだ取り上げられていない内容を扱ったりすると、新しい情報を英語で得られることに喜びを感じていたようである。

今後の課題

今後は次のような点を考慮しながら研究を進め、より体系立ったシラバスデザインを考えていきたい。

1) ニーズ分析：上記Strevensの定義にもあるように、ニーズ分析はESPの大きな特徴である。卒業後の進路においてどのような技能や知識が必要とされているのかを知ることは授業内容に大きな影響を及ぼす。木村(1992)の調査は、大学工学部の学生にどのような英語が望まれているかを企業アンケートにより調査しESPの必要性を説いたものであるが、このように学生の就職先である企業側にどのような英語に対するニーズがあるかを調査したり、卒業生へのアンケート／インタビューを行なってニーズ分析を行うことも考えられる。

2) 談話(discourse)分析／位相語(register)分析などの言語学的分析による教材開発：この分野では先行研究が多数あるので、その手法を活かし、ファッションというコンテクストにおける言語的特徴を分析する。またその結果を教材選定基準として活用し、教材の種類も難易度別に増やしてゆく。

3) 他教科との連携：学科全体の教育カリキュラムにおける「ファッション英語」の位置づけを明確にし、他教科との横ならびの関係を築く。たとえば、日本語で修得したファッションに関する知識を英語で読んだり表現したりする機会をもうけたり、写真撮影の技術、コンピュータ／ワープロの技術を使ったプロジェクトなどが考えられる。また、プログラムコーディネーターや服飾関連の教師たちとのチャンネルづくりは、英語教師側の服飾に関する知識不足を補うためにも、教材選定上のアドバイスを受けるためにも大切である。

おわりに

本稿では、まずESPの概観を説明し、その一般的な分類を紹介した。つぎにESPとGeneral Englishを二項的ではなく連続的なものとして捉え、授業の位置づけは現場のさまざまな要因によって決定されるということ論じた。筆者が担当している「ファッション」英語は、かなりGE寄りのESPと考えられるが、服飾専門学校としての特色を示すという点で学生からも積極的に受け入れられている。ESPを体系的に行っていくには他教科との連携や学校側の協力が必要不可欠であり、教員の養成、ニーズ分析、談話／位相語分析など、これからの課題は多いが、General Englishが大部分を占める日本の高等教育機関における英語教育のなかで、実社会で現実に役立つスキル中心のこうしたアプローチを提供することは意義あることだと考える。

参考文献

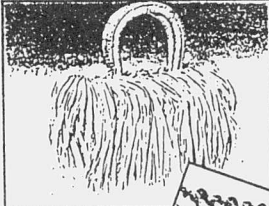
- Hutchinson, Tom and Waters, Alan. 1987. *English for Specific Purposes: A learning-centered approach*. Cambridge University Press.
- Johns, Ann M. and Dudley-Evans, Tony. 1991. English for Specific Purposes: International in Scope, Specific in Purpose. *TESOL Quarterly*, pp.297-314.
- McDonough, Jo. 1984. *ESP in Perspective: A Practical Guide*. Collins ELT: London and Glasgow.
- Robinson, Pauline. 1991. *ESP Today: A Practitioner's Guide*. Prentice Hall International.
- Widdowson, H. G. 1983. *Learning Purpose and Language Use*. Oxford University Press.
- 木村隆. 1992. 「工学部の英語教育を考える—企業のニーズ分析から—」『英語教育』2月号, pp.32-35.
- 橋内武. 1982. 「ESPの立場から大学の英語教育を考える」『ノートルダム清心女子大学紀要』第6巻, 第1号, pp. 101-112.

Joho (1) Fashion English
Translation Assignment #2

No. _____ Name _____

Accessories

TRENDS



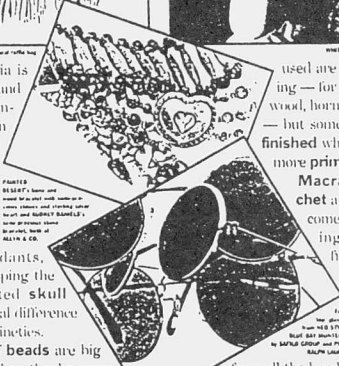
Seventies nostalgia is back in a big way, and accessories designers are caught up in the wave. They've searched their own hippie pasts for inspiration, and created funky **round glasses**, piles of pendants, **scarves** for wrapping the head and crocheted **skull caps**. The only real difference is that this is the Nineties.

Long strands of **beads** are big news, especially when they're worn with the season's floating fabrics and bell-bottomed silhouettes. The materials

used are always interesting — for example, carved wood, horn or vintage glass — but some are exquisitely finished while others have a more primitive look.

Macrame and crochet are also making a comeback, re-emerging in everything from hip-hugging belts and hats to gloves and wraps. **Bags**

also benefit from all the handiwork — they're given the texture treatment in canvas, linen or straw.



(1)

Joho: Fashion English
Translation Assignment #3

No. _____ Name _____

Worksheet

辞書を頼らずに訳書を読み、どの段落内容が理解できるか試してみよう。次の質問に英語で答えてください。

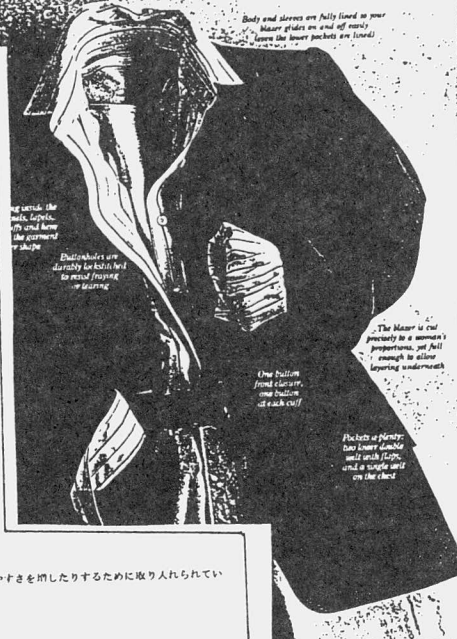
- 今シーズンのアクセサリのトレンドを5語以内の英語で表現するとすれば？
- アクセサリアデザイナー達が70年代を振り返って今シーズン作りだしているアクセサリの例をいくつか。
- アクセサリにはどんな素材/材料が使われていますか？
- バッグの素材としてはどんなものがあげられていますか？
- 23行目のexquisitely finishedとは何のことか(または句)を文中から見つけてください。
- 28行目のre-emergingと同じ意味のことか(または句)を文中から見つけてください。

(2)

Women's WEAR

RAYON GABARDINE BLAZER

The extra details add longevity to this year-round classic.



Body and sleeves are fully lined in your blazer grade on and off study. Even the lower pockets are lined.

ing detail: the belt, cuffs, left and lower the collar.

Buttchairs are closely set behind to avoid fraying in wearing.

The blazer is cut primarily to a woman's proportions, yet full enough to allow layering underneath.

One button front closure, one button at each cuff.

Pockets of plenty: two lower button and one top, and a single welt on the chest.



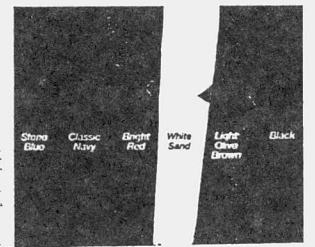
Shirt p. 100

Let's detail the fabric first. This isn't the ordinary rayon you're likely to find in the crop of spring blazers out there. It's unusually fine (feels almost suede-like under your fingers) and lightweight, which gives the garment a beautiful drape. Let's you wear it a full four seasons too.

But here's the important thing: because the fine yarns are given a tight, high-twist gabardine weave, it's also a remarkably durable fabric. (We rarely have time to pamper ourselves, who has time to pamper their clothes?)

As for the tailoring details, left, they're pretty above-the-ordinary for women's clothing too. But they go a long way toward making your blazer fit better, last longer. Traditional fit. Dry clean. Made in USA. Colors below.

Regular even sizes 6-18. 2232-8321 110.00
Petite even sizes 4-16. 2839-0326 110.00



Fashion English
Blazer Details

Worksheet

- このページの用語は次のうちどれだと思いますか？
1) グレーグ誌
2) ナインエーダークのカタログ
3) 英語学習のための教科書
4) セブンティーン誌
- このブレザーはいくらですか？
- 素材はなんですか？
- このブレザーには装飾がついていますか？
- このブレザーにはどんな色合いがありますか？
- このスカートは台襟ですか？
- スカートは色合いで何色用紙されていますか？
- このスカートは洗濯機で洗うことができますか？
- ブレザーのポケットを縫いだし、機能を削したり、ポケットを削いたりするために取り入れられている装飾の材料をできるだけたくさん見つけてください。